

## ▶ 環境会計

当社では、効率的な環境保全活動の実施と取り組み状況の透明性を高めることを目的に、「環境会計」を実施しています。

2015年度は、地球温暖化防止対策として、循環流動層ボイラー増強や蒸気再圧縮 (VRC<sup>1)</sup>) 技術の導入など約37億円を投資し、環境投資の総額は全投資額の約17%となりました。今後も、環境会計の適切な把握を行い、環境保全を推進していきます。

物量に関する環境保全効果については、「ダイセルグループ CSR報告書2016」環境保全30～31ページならびに「CSR報告書2016詳細報告 環境保全/化学品安全」(<http://www.daicel.com/csr/library.html>) でご覧いただけます。

集計期間：2015年4月～2016年3月

集計方法：環境省発行の「環境会計ガイドライン2005年版」、一般社団法人 日本化学工業協会の「化学企業のための環境会計ガイドライン」に準拠して算出

投資額：2015年度の環境保全に関する設備の投資実績

費用額：環境保全に関する設備の減価償却費・設備維持管理費・人件費などの実績値

環境保全対策に伴う経済効果：実質的效果のみとし、リスク回避効果やみなし効果は含まない。経済効果のエネルギー費用の削減効果については、実施した省エネルギー対策の12カ月間にわたるエネルギー費用の削減効果を計上した。

### 環境保全コスト

分類		主な取り組みの内容	投資額 (百万円)	費用額 (百万円)
生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)			3,537	4,635
内 訳	公害防止コスト	大気・水質の汚染防止、有害物質の排出抑制、公害健康被害賦課金	137	2,021
	地球環境保全コスト	自家発電用循環流動層ボイラーの設置着手、蒸気再圧縮(VRC)技術の実証設備の設置、ピンチ解析経費	3,384	1,165
	資源循環コスト	産業廃棄物の適正処理・処分	16	1,449
生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		容器包装リサイクル負担、グリーン購入	0	286
管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		環境管理人件費、環境マネジメントシステム運用・維持経費、環境教育費用、環境負荷対策費用	0	554
研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		製品・製造工程環境負荷低減テーマでの研究開発	199	169
社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		緑化・美化などの環境改善活動、地域行事参加、会費	3	31
環境損傷に対するコスト(環境損傷コスト)		自然修復費用、環境保全に関わる損害賠償費用等、自然損傷に対応する引当金繰入および保険料	0	3
合 計			3,739	5,678

項目	金額(百万円)	環境比率(%)
当該期間の設備投資額	22,257	16.8%
当該期間の研究開発費	10,900	1.6%

### 環境保全対策に伴う経済効果 — 実質的效果 —

項目	金額(百万円)
省エネルギーによる費用削減	298
省資源による費用削減	355
再資源化により得られた収益	414
廃棄物処理費用削減	23
合 計	1,090

#### 用語解説

1) VRC技術：低温の蒸気が持つ排熱を圧縮することにより高温の蒸気にして熱を回収する技術で、低温排熱回収技術として普遍的に活用することが期待できる技術です。